

Rainbow Project 日本語版 日本事情：はじめての芭蕉出立の地 解説

都電編の動画では、三ノ輪橋周辺での観光ロケは実現できませんでしたので、スライドショーでの紹介となりました。ここでは、三ノ輪橋周辺の解説をしていくことにします。

三ノ輪橋駅から南千住駅にかけて、松尾芭蕉に関わるさまざまなものを目にすることができます。

まずは、千住大橋。日本最古のタイドアーチ橋であると同時に、奥の細道への出立の地とされています。もちろん現在の橋ではなく、木造の橋の頃の話です。出立したのが足立区の北千住であったか、荒川区の南千住であったかについては、決着がついていませんが、このあたりから出立したと伝えられています。

千住大橋の近くにある素すき浅の鳴神社には、芭蕉旅立ちの句である「行く春や鳥啼魚とりなきうおの目はなみだ涙」の石碑があります。なお、スサノオ神社は、荒川区で最も広い鎮守です。

少し足をのばせば、荒川ふるさと文化館があります。常設展示として「奥の細道と千住コーナー」がありますので、資料に目を通すことで芭蕉への理解がより深まることでしょう。また、館内には、昭和41年ごろの復元家屋があります。昭和ノスタルジーをご堪能ください。

つくばエクスプレスの南千住駅西口側には、松尾芭蕉の銅像が建てられています。2015年3月に開催された「奥の細道 千住あらかわサミット」を機に建立されました。1689年3月27日に千住の地から芭蕉が旅立ってから、326年後の出来事となります。

都電編の動画内で、ジョイフル三ノ輪が紹介されています。大正時代に開業した歴史ある商店街です。ここでは、さまざまな食が楽しめますが、2軒ほど紹介しておきます。

まずは、砂場総本家。江戸三大そばは、更科、藪、砂場ですが、その中の砂場で現存する最も古いお店となります。砂場そばは、江戸時代の大坂発信なのですが、本家の大坂は既に全滅していて、今は都内でしか食べられなくなっています。

そして、お惣菜の店きく。揚げたての天ぷらを美味しく召し上がることができます。名物の紅生姜天ぷらは、近畿地方ではなじみのある食べ物ですが、ここで食べることができます。

他にもいろいろ美味しいものがあるようです。一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

出演者・スタッフ一覧

※はじめての芭蕉出立の地

撮影日 2017年6月17日

撮影場所 南千住駅～三ノ輪橋駅周辺

乗客 金濱 茉由
遠藤 彩美

写真 福盛 貴弘
編集 福盛 貴弘
橋本 泰敏

言語アドバイザー 高野 愛子

ナレーション 太田 成美

協力 東京都交通局、株式会社テラフォーミング
大東文化大学外国語学部日本語学科
大東文化大学外国語学会日本語部会言語学プロジェクト

監督 福盛 貴弘